

5月16日から道議会庁舎で「核の脅威」パネル展

一昨年5月から道議会庁舎（議事堂）が新しくなりました。その庁舎1階ロビーで5月16日（月）から6月6日（月）まで20日間にわたって「核の脅威パネル展」が実施されます。道議会広報委員会が企画し被爆者協会が全面的に協力して実現しました。



道議会庁舎 1F の展示コーナー

日本被団協作成の「原爆と人間」パネルから15点、併せて「世界の核兵器」ポスター（長崎大学）2点、被爆遺品6点、辻口清吉さん（北海道の被爆者、故人）の原爆の絵の展示、越智晴子さん（元被爆者協会会長、故人）の証言動画の放映もあります。

その他、絵本『北の里から平和の祈り〜ノーマア・ヒバクシャ会館物語』が閲覧可能な状態で陳列されます。会館リーフレットも増刷しました。

被爆77年、道政の中心で開かれるパネル展に期待が高まります。

7月には道庁1Fロビーで「被爆の体験と原爆展」

8回目を迎える「被爆の証言と原爆展」が7月21日と22日の2日間に実施されます。会場は道庁ロビーです。

期間は短いですが、被爆者が自らの体験を語り伝えるのが特徴です。加えて被爆二世も語ります。今年は1日目は被爆者が、2日目は被爆二



昨年7月の「被爆の証言と原爆展」の様子

世が「親の被爆体験と二世の思い」を語ります。体験の継承が新しい形で動き出しました。

札幌市が平和都市宣言 30周年、意欲的な企画が

札幌市の平和都市宣言は今年30周年を迎えました。宣言は「私たち札幌市民は、日本国憲法がかかげる平和の理念に基づき、非核三原則を守ることを誓い、信義と公正を重んずる全世界の市民と相携えて世界平和の実現を望みつつ、ここに札幌市が核兵器廃絶平和都市であることを宣言します。」と謳っています。核兵器をめぐる緊迫した情勢の中、この宣言の意義はいちだんと大きくなっていきます。4月から札幌市は庁舎ロビーに宣言を貼りだしました。宣言が採択されたのは1992年3月30日、前年の12月23日にノーマア・ヒバクシャ会館ができています。願いはつながっています。被爆者派遣事業。今年も希



望する学校が20校を超え、約2000名の生徒が被爆者の証言を聞くことになりました。また市は10分間の「核の脅威」の動画を作成しました。被爆者の証言に合わせて上映することを計画中です。

道の地域保健課と折衝

4月28日廣田会長代行は協会の要望事項について道の担当課と折衝。また被爆者宛て道の案内文書にアンケートを付した協会の文書を入れてもらうこと、二世に個別に健康診断の案内を送ることなどは確認済みです。

